

会 報

No.59 (1998年2月)

目 次

◆第10期第2回評議員会報告	1
◆第20回総会報告	2
◆第21回(1998年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1)	4
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について	6
◆研究助成一覧	7
◆内藤記念科学振興財団設立30周年記念「内藤コンファレンス」テーマ募集	9
◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	9
○第12回ヤクルト国際シンポジウム	
○第13回日本生体磁気学会大会	
○第2回マリンバイオテクノロジー学会大会	
○第5回肝細胞研究会	
○第4回家族性腫瘍研究会学術集会	
○国際枯草菌シンポジウム	
○第20回糖質シンポジウム	
○国際シンポジウム 細胞内情報伝達ネットワーク	
○第3回アジア太平洋細胞生物学会議	
○第9回日本消化器癌発生学会	
○第25回核酸化学シンポジウム	
○神奈川科学技術アカデミー教育講座受講生募集	
○理化学研究所脳科学総合研究センター チームリーダー公募のお知らせ	
◆GENES TO CELLS 第2期編集委員	15

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆日本分子生物学会 第10期第2回評議員会報告

日 時：1997年12月15日（月）15：00～19：00

場 所：京都宝ヶ池プリンスホテル 鞍馬の間

出席者：大石道夫（会長）、饗場弘二（選考委員長）、石浜 明、岩淵雅樹、大塚栄子、小川英行、近藤寿人、榊 佳之、品川日出夫、杉野明雄（将来計画委員長）、辻本賀英、中西重忠、三浦謹一郎、村松正実、柳田充弘、吉川 寛、丹羽修身（庶務幹事）、山本正幸（編集幹事）、花岡文雄（会計幹事）、清水 章（集会幹事）、勝木元也（集会幹事）、本庶 佑（第20回年会長）、吉田光昭（第21回年会長）

欠席者：谷口維紹、長田重一、松原謙一

議 事：

1. 第1回評議員会の議事録を確認した。
2. 報告事項
 - 1) 庶務幹事より平成10年度科学研究費補助金（二段審査に関わるもの）の審査委員候補者として、第1段審査委員10名、第2段審査委員2名を学会から推薦したことが報告された。
 - 2) 選考委員長より各種学術賞、研究助成候補の推薦の状況について報告された。
 - 3) 会計幹事より1997年度会計収支の中間報告がなされ、健全な経費の運用が確認された。
 - 4) 本庶第20回年会長から、第20回年会の開催に当たっての基本的考え方についての説明があった。若い人の意見をなるべく取り入れたこと、シンポジウム・ワークショップとポスターセッションを一体としたプログラム編成にしたこと、異分野セミナーを開催し学会としての間口を広げたこと、事前登録費の割引率を高め入場者の数の確保に努めたこと、懇親会を復活したことなどが挙げられた。また、演題数の増加などの理由でポスター会場を分散せざるを得なかったことなどが説明された。これに関連して清水集会幹事（第20回年会実行委員長）から一般演題申込数が約2,700題であること、事前登録が3,500名以上であり、年会参加者は5,000人を超えることが見込まれること、講演要旨集のCD-ROM化などについてのアンケートを実施するとの報告があった。
 - 5) 吉田第21回年会長より、第21回年会は1998年12月16日から19日までパシフィコ横浜で開催されること、ポスター発表を基本とするが口頭発表も取り入れる方向で検討中であることなどが報告された。
 - 6) 庶務幹事より第22回年会は、西本毅治九州大学教授を年会長として福岡地区で開催する予定であることが報告された。
 - 7) 編集幹事より Genes to Cells の現状についての報告がなされた。この中で部数の拡大の努力がさらに必要であり、このためにいくつかの方策がとられる必要があることが指摘された。すでに未購読の個人会員にたいしては勧誘の手紙を会長との連名で出し、同時に購読申込みを(財)日本学会事務センター取扱いとして個人購読の便宜を図ったこと（会報第58号参照）、賛助会員の購読数の増加を図るための方策を検討中であること、北米地区への浸透を図るために有力図書館などへのアプローチを試みているがまだ成果が十分でないことなどである。個人購読数の増加は見られているが、寄贈数の減少があるため、個人購読の増加には至っていないこと、editor の見直しを行っていることも報告された。

編集幹事の報告に引き続き、各評議員の意見が求められ、Genes to Cells の抱える問題点が指摘された。今後、これらの意見を参考にして、雑誌の質と量の改善のために努力する必要があるとの認識で一致した。
 - 8) 日本生化学会、日本植物学会、日本動物学会とともに、社会に対するアピールや諸官庁などへの要望等の窓口となる生物科学諸学会の連絡組織としての「生物科学・学会連合」結成の呼びかけ団体となるとの報告が会長からあった。

3. 協議事項

- 1) 会計幹事より1998年度事業計画および予算案についての説明があり、異議なく了承された。
Genes to Cells の購読を(財)日本学会事務センター取扱いとしたことに伴う費用の計上、選挙・名簿作成の年度に当たるなどの理由で、前年度よりも多少支出が増加する見通しである。
- 2) 会長より、Genes to Cells の購読数の増加を図る問題とも関連して、賛助会員の勧誘の手紙を出す予定であること、その際に賛助会員にも雑誌の購読をお願いすることを考えているとの発言があった。そして、賛助会費を口数制から雑誌購読費を含めた定額制にしてはどうかという提案があったが、この問題は会則の変更も伴うので今後の検討課題とした。
- 3) 日本生化学会との合併問題については引き続き検討していくこととなった。

◆日本分子生物学会 第20回総会報告

日 時：1997年12月18日（木）11：00～11：45

場 所：国立京都国際会館 メインホール

議事内容：

1. 大石会長が開会の挨拶を行い、総会議長として高橋直樹氏、西田栄介氏を選出した。
2. 議長より委任状を含めて400人以上の総会参加があり、総会が成立していることが報告された。
3. 大石会長より1997年度の学会活動の概要が報告された。
4. 山本編集幹事より Genes to Cells の購読申込法の変更、部数拡大の努力について説明があった。
5. 丹羽庶務幹事より会員数の報告などの会務報告があった。
6. 花岡会計幹事より1996年度会計収支決算書が提出、説明され、異議なく承認された。
7. 花岡会計幹事より1998年度事業計画および予算案が提案、説明され、異議なく承認された。
8. 本庶第20回年会長の挨拶があり、5,000名を越える参加者があり順調に運営されている旨の説明があった。
9. 吉田第21回年会長の挨拶があり、準備状況についての説明があった。
10. 丹羽庶務幹事より第22回年会は1999年12月上旬に福岡で開催される予定であることが紹介された。
11. 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

1997年12月5日現在会員数

		前年総会・対比
名誉会員	2名	(+ 0)
正 会 員	5,965名	(+353)
学生会員	2,909名	(+ 37)
外国在住会員	194名	(+ 31)
賛助会員	35社 (42口)	(- 4)
合 計	9,105名	(+417)

1998年度日本分子生物学会収支予算案

(1998年4月1日 ~ 1999年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	97年度予算額	98年度予算案	備 考
学 会 費	30,840,000	32,730,000	正会員会費 24,300,000円
賛 助 会 費	1,380,000	1,500,000	学生会員会費 7,830,000円
広 告 収 入	0	1,800,000	海外会員会費 400,000円
預 金 利 子	300,000	100,000	入会金 200,000円
雑 収 入	50,000	50,000	
収 入 小 計	32,570,000	36,180,000	
前年度繰越金	※ 7,340,000	8,700,000	※96年度決算・繰越金概算とした
合 計	39,910,000	44,880,000	

支出の部

科 目	97年度予算額	98年度予算案	備 考	
事 業 費	12,200,000	13,000,000		
会報発行	3,000,000	3,000,000	第22回年会補助200万円 プログラム・第21回年会分200万円	
年会補助金	2,000,000	4,000,000		
年会プログラム	2,000,000	0		
年会特別講演謝金	200,000	0		
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000		
国際誌購読関係費	0	1,000,000		国内購読取りまとめ費用
その他	1,000,000	1,000,000		講習会補助金他
評 議 委 員 会 費	1,000,000	5,000,000		
委員会費	1,000,000	1,000,000	会員増に伴う発送手数料増	
選挙・名簿作成費	0	4,000,000		
業 務 委 託 費	8,500,000	9,000,000		
一 般 事 務 費	8,510,000	10,110,000		
用品費	10,000	10,000	会報に名簿同封	
印刷費	300,000	300,000		
通信費	7,400,000	9,000,000		
庶務事務費	650,000	650,000		
雑 費	150,000	150,000		
予 備 費	1,000,000	1,000,000		
支 出 小 計	31,210,000	38,110,000		
次年度繰越金	8,700,000	6,770,000		
合 計	39,910,000	44,880,000		

※ 上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金 4,000,000円（定期預金）があります。

◆第21回（1998年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その1）

第21回日本分子生物学会年会を下記の要領で開催いたします。

1. 会 期：1998年12月16日（水）～19日（土）

総会；12月18日（金）

2. 会 場：パシフィコ横浜

（横浜市西区みなとみらい1-1）

3. 内 容：

現在下記の要領での開催を検討しております。詳細は次回会報（No. 60）でお知らせします。

- 1) 年会では、ポスター発表による一般演題、テーマごとのワークショップ（テーマ数検討中）、シンポジウム（12テーマ、60題程度）、特別講演（未定）、バイオテクノロジーセミナー、市民公開講演会等を計画中です。
- 2) 懇親会の代わりに、ミキサーを企画いたします。
- 3) 講演要旨集は印刷物として発行し、CD-ROMは作成いたしません。
- 4) ポスター発表とワークショップの一部を募集する予定です。ワークショップに応募し不採用になった方は自動的にポスター発表とさせていただきます。（応募の締切りは8月21日（金）を予定しております。）

なお、年会開催についてのご意見、ご希望は、年会長宛にご連絡下さい。

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所

吉田 光昭（第21回年会長）

TEL (03) 5449-5275、 FAX (03) 5449-5421

第21回 日本分子生物学会年会 準備委員名簿

委員長

吉田 光昭 東京大学医科学研究所細胞化学研究部

幹事

勝木 元也 東京大学医科学研究所獣医学研究部
 谷口 維紹 東京大学大学院医学系研究科病因・病理学
 鶴尾 隆 東京大学分子細胞生物学研究所
 中村 祐輔 東京大学医科学研究所
 ヒトゲノム解析センター
 山本 雅 東京大学医科学研究所制癌研究部

委員

秋山 徹 東京大学分子細胞生物学研究所
 石川 冬木 東京工業大学生命理工学部生命学科
 伊藤 青我 協和発酵株式会社富士工場医薬総合研究所
 稲垣 冬彦 東京都臨床医学総合研究所
 生理活性物質研究部門
 井上純一郎 東京大学医科学研究所制癌研究部
 井ノ口 馨 株式会社 三菱化学生命科学研究所
 大木 操 国立がんセンター研究所放射線研究部
 大坪 栄一 東京大学分子細胞生物学研究所
 大野 茂男 横浜国立大学医学部第二生化学
 大矢 禎一 東京大学大学院理学系研究科生物科学
 岡山 博人 東京大学大学院医学系研究科
 分子細胞生物学
 堅田 利明 東京大学大学院薬学系研究科生理化学
 唐木 英明 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学
 北 潔 東京大学医科学研究所寄生虫研究部
 小原 雄治 国立遺伝学研究所構造遺伝学研究センター
 小安 重夫 慶應義塾大学医学部微生物学
 斎藤 泉 東京大学医科学研究所遺伝子解析施設
 榊 佳之 東京大学医科学研究所
 ヒトゲノム解析センター

笹川 千尋 東京大学医科学研究所細菌研究部
 清水 孝雄 東京大学大学院医学系研究科
 分子細胞生物学
 鈴木 明身 東京都臨床医学総合研究所生体膜研究部門
 清木 元治 東京大学医科学研究所癌細胞研究部
 仙波憲太郎 東京大学医科学研究所細胞化学研究部
 高木 利久 東京大学医科学研究所
 ヒトゲノム解析センター
 高津 聖志 東京大学医科学研究所免疫研究部
 竹縄 忠臣 東京大学医科学研究所細胞生物化学研究部
 田中 啓二 東京都臨床医学総合研究所
 化学療法研究部門
 田沼 靖一 東京理科大学薬学部生化学
 田村 隆明 千葉大学大学院自然科学研究科多様性科学
 田矢 洋一 国立がんセンター研究所生物学部
 鏑田 武志 東京医科歯科大学難治疾患研究所
 ウイルス免疫疾患研究部門
 永井 美之 東京大学医科学研究所ウイルス感染研究部
 中野 明彦 理化学研究所生体膜研究室
 中村 義一 東京大学医科学研究所癌体質学研究部
 西村 善文 横浜市立大学大学院総合理学研究科
 野田 哲生 財団法人 癌研究会癌研究所細胞生物部
 野本 明男 東京大学医科学研究所ウイルス研究部
 広海 健 国立遺伝学研究所発生遺伝研究部門
 藤沢 淳子 国立精神・神経センター神経研究所
 遺伝子工学研究部
 古市 貞一 東京大学医科学研究所化学研究部
 古市 泰宏 株式会社 エイジーン研究所
 正井 久雄 東京大学医科学研究所分子生物学研究部
 三品 昌美 東京大学大学院医学系研究科機能生物学
 水本 清久 北里大学薬学部生理化学
 宮園 浩平 財団法人 癌研究会癌研究所生化学部
 山本 正幸 東京大学大学院理学系研究科生物化学

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会選考委員会の審査に基づいて、学術賞、研究助成について下記のように本学会から推薦いたしました。

・第29回（1997年度）内藤記念科学振興賞受賞候補者

池田日出男（東大・医科研）DNAの二本鎖切断修復と非相同的組み換えに関する研究

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

日本分子生物学会 選考委員長 饗場弘二
〒464-0814 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
FAX (052) 789-3001

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

◆研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	縮 切	助成内容等	概 要
第29回三菱財団 自然科学研究助成	(株)三菱財団 ☎(03) 3214-5754 〒100-0005 千代田区丸の内2-5-2	・総額3億円 30件程度	1998年 2月20日	1件当たり2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独 創的、かつ先駆的研究と ともに、国際的発展に先 導的役割を担う萌芽とも なる研究(原則として個 人研究)。
新化学発展協会 1998年度研究奨励 金	(社)新化学発展協会 ☎(03) 3294-8031 〒101-0051 千代田区神田駿河台1-5	6課題、 各課題1件	1998年 2月2日	1件 150万円	新化学の発展に資する若 手研究者(39歳以下)の 研究に対して、研究奨励 金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 1998年度研究援助	(財)山田科学振興財団 ☎(06) 757-3311 〒544-0012 大阪市生野区巽西1-8-1	10件程度 (2件)	1998年 3月31日	1件当たり100~ 500万円、総額 4,000万円	自然科学の基礎的研究に 対しての研究費援助。
日本生命財団研究 助成	(財)日本生命財団 ☎(06) 204-4012 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル	総額 1億円程度	1998年* 5月12日	申請金額に制限 なし	「人間活動と環境保全と の調和に関する研究―自 然と人間の共生への新し い道を求めて―」の趣旨 に沿った研究のうち、「人 間活動と自然環境との関 係(人間と自然環境の共 存)」関連分野で、かつ 現在および将来の重要課 題。
ファルマシアバイ オテック分子生物学 若手研究者奨学金	ファルマシアバイオテック(株) 本社プロモーション室 ☎(03) 3492-7864 〒141-0021 品川区上大崎4-5-37 本多電機ビル (応募先) Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE Room 1044, 1200 New York Avenue, NW Washington, DC 20005, USA	8名以内	1998年* 5月31日	最優秀賞金 US\$ 20,000 その他の受賞者 US\$ 5,000	1995年より SCIENCE 誌 との協賛で、学位取得直 後の優秀な若手研究者を 支援するために Pharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biology を設 置。
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎(03) 3263-1721 〒102-0083 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル 日本学術振興会内	1件 (1件)	1998年* 6月6日	賞状、賞牌 1,000万円	生物学の研究において世 界的に優れた業績を挙げ 、世界の学術進歩に大き きな貢献をした研究者 (昨年度、授賞分野は植 物科学)。
第16回研究助成 第15回国内および 海外留学補助金 第15回持田記念学 術賞	(財)持田記念医学薬学振興 財団 ☎(03) 3358-7211 〒160-0004 新宿区四谷1-7	・総額 4,200万円 ・総額 500万円 ・2件以内 (1件)	1998年* 6月30日 1998年* 6月30日 1998年* 7月31日	・1件 100万円 ・1件 50万円 ・1件 300万円	生命科学・薬物科学・情 報科学・生体工学と医療 応用の研究の分野におけ る研究で、顕著な功績が あり、かつ新進気鋭の研 究者。
第25回日産学術研 究助成	(財)日産科学振興財団 ☎(03) 3543-5597 〒104-0061 中央区銀座6-17-2	(A)一般研究 10件程度 (2件) (B)奨励研究 25件程度 (枠なし)	1998年* 8月31日	(A)1,000万円まで (B) 200万円まで	自然科学分野で、それぞ れの研究の成果が学術の 進歩、発展に貢献すると ころが大きいと思われる もの、新しい研究分野の 開拓に貢献するもので、 45歳以下の研究者および 研究グループ(奨励研究 は35歳以下)。
第6回日産科学賞		・2件 (1件)		・賞状、メダル 500万円	自然科学分野で、学術文 化の向上発展に大きな貢 献をした満50歳未満の研 究者。
笹川科学研究助成	(財)日本科学協会 ☎(03) 3502-1931 〒105-0001 港区虎ノ門1-11-2 第2船船振興ビル	380件	募集期間 1998年* 9月1日 ~ 10月31日	1件当たり100万円ま で	人文学、社会科学および 自然科学(医学を除く)、 または境界領域の研究計 画に関するもの。4月1 日現在、35歳以下の若手 研究者へ助成。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎(03) 3985-3500 〒171-0033 豊島区高田3-25-3	2件以内 (1件)	1998年* 9月10日	金牌 1,000万円	生命科学の栄養学、薬学、 基礎および臨床医学、社 会医学で顕著な業績を挙 げ、引き続き活躍中の研 究者。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
井上 学 術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎(03) 3477-2738 〒150-0033 渋谷区猿楽町11-20	5件以内 (1件)	1998年* 9月20日	1件賞状、メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者 で特に顕著な業績を挙げ た者(ただし締切日現在 満50歳未満)。
木原記念財団学術 賞	(財)木原記念横浜生命科学 振興財団 ☎(045) 825-3487 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12	1件 (1件)	1998年* 9月30日	賞状、記念牌 200万円	最近において生命科学の 分野で優れた独創的研究 を行っている国内の研究 者で、原則として50歳以 下の者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 ☎(047) 350-6103 〒279-0011 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	1998年* 10月9日	1件 賞状、金メダル 500万円	学術上の業績顕著な者、 学術上重要な発見をした 者、重要な発明により効 果が大きい者、技術上の 重要問題を解決し貢献が 大きい者。
東レ科学技術研究 助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	1998年* 10月9日	特に定めず最大 3,000万円まで	基礎的な研究に従事し、 今後の研究の成果が科学 技術の進歩、発展に貢献 するところが大きいと考 えられる、独創的、萌芽 的な研究を活発に行っ ている若手研究者。
第30回科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 ☎(03) 3813-3005 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件)	1998年* 11月10日	正賞、金メダル 300万円	人類の健康の増進に寄与 し得る自然科学の基礎的 研究、なかならず疾病の 予防と治療に関する独創 的テーマに取り組み、自 然科学の進歩発展に顕著 な功績を挙げた研究者。
第30回海外学者招 聘助成金		前後期各総額 500万円 (1件)	1998年* 7月10日 11月10日	1件 50万円まで	同上のテーマに取り組 み、国際的に高い評価を 得ている外国の研究者。
ブレインサイエ ンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振 興財団 ☎(03) 3273-2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	・ 8件 (1件)	1998年* 11月30日	・ 1件 80万円	ブレインサイエンス研究 分野(脳神経に関する自 然科学的研究をすべて含 む研究領域)において独 創的で国際的評価に値す る研究者。なるべく若い 者、単独または共同研究 も可。
塚原仲晃記念賞		・ 1件 (1件)		・ 1件 100万円	
研 究 助 成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎(06) 535-2117 〒550-0013 大阪市西区新町1-1-17	・ 10数件	1998年* 12月15日	・ 1件 250万円程度	生化学および有機化学等 の分野において研究活動 を行う研究者または研究 機関。
国 際 交 流 助 成		・ 10件程度	1998年* 12月15日	・ 1件 50万円程度	生化学および有機化学等 の分野において研究調査 を行う研究者の海外派遣 または招聘(除く留学)。
海外派遣研究助成	(財)ブレインサイエンス振 興財団 ☎(03) 3273-2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	・ 総額 120万円 (1件)	1999年* 1月16日	・ 1件 30万円まで	ブレインサイエンスの研 究の促進を図るため、国 際学会、シンポジウム等 への参加、あるいは研究 者の派遣を助成。
海外研究者招聘助 成		・ 総額 80万円 (1件)		・ 1件 30万円まで	同分野において独創的テ ーマに意欲的に取り組ん でいる外国人研究者の招 聘を助成。
第12回研究会助 成	(財)チバ・ガイギー科学振 興財団 ☎(0797) 74-2460 〒665-0042 宝塚市美幸町10-66	・ 約10件 (1件)	7月以降、 随時受け る	・ 1件 50万円	わが国で開催される生命 科学(医学、薬学、農学、 生物学、化学等)の領域 における研究会に対し、 運営経費の一部を助成 する。研究会はかなりの 数の国外からの参加 者を含む国際性豊かな集 会で行わなければならない。 ただし、参加者が1,000 名を越すような大規模な 研究会および2国間の 研究会は原則として助 成の対象としない。
第8回海外学会出 席助成		・ 総額 300万円 (1件)		・ 1件当り 25~30万円	海外で開催される生命科 学の学会への出席に対 し、旅費・滞在費の一部 を助成。

() 内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合本学会よりの推進枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年の締切日を参考に示してあります。

◆内藤記念科学振興財団設立30周年記念「内藤コンファレンス」テーマ募集

内藤コンファレンスは、米国のゴードン・リサーチ・コンファレンスを手本にして、①離れた場所で、②質の高い小グループで、③個人的な交流に重きをおいて全員が合宿、というルールで発足し、1991年に第1回を「細胞における蛋白質移行」(水島昭二組織委員長)のテーマで開き、現在までに9回を開催してきました。

領域：生命科学の基礎的研究

規模：講演者25人(うち外国人10~12人)、ポスターセッション30人×2日で60人、参加者総数約100人。

言語：発表・討論とも英語で通訳なし。

会場：湘南国際村センター(神奈川県三浦郡葉山町)

開催時期：1999年10月~11月上旬

会期：3泊4日(午前) (午後) (夜)

1日目：レジストレーション レセプション

2日目：セッション①セッション②ポスター①

3日目：セッション③セッション④ポスター②

4日目：セッション⑤昼食後に解散

費用：

開催費の全額(約1,700万円)を内藤財団で負担します。海外演者には往復の渡航費(ビジネスクラス)と日本国内の旅費を、国内演者に対しては新幹線・航空運賃等の旅費を支給します。他の参加者は、交通費は自費となります。なお、3泊4日の宿泊費と食事代は内藤財団で負担します。

応募期間：1998年3月31日(火)まで

選定：

理事・評議員からなるテーマ選定委員会において1件を選び、評議員会の同意を得たうえで理事会で決定します。

申請用紙：

内藤記念科学振興財団事務局までFAXでご請求下さい。

問合せ先：財団法人 内藤記念科学振興財団

〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階

TEL(03)3813-3005、FAX(03)3811-2917

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第12回ヤクルト国際シンポジウム

日時：1998年5月21日(木)13:00~17:40

会場：ヤクルトホール(東京・新橋)

メインテーマ：

“Secrets of Plant Genomes”「植物ゲノムの神秘」

講師および演題：

1. Reinhold G. Herrmann (Univ. München)

「太陽エネルギーを変換する植物オルガネラ、葉緑体、ミトコンドリア、ハイドロゲノゾームから学ぶ」“Lessons from energy-transducing cell organelles: solar-powered chloroplasts-mitochondria-hydrogenosomes”

2. Jacques H. Weil (Univ. de Strasbourg)

「植物ミトコンドリアゲノムの発現に必要なRNA編集とtRNAの輸送」“The expression of the plant mitochondrial genome requires RNA editing and tRNA import”

3. 杉浦昌弘(名大・遺伝子実験)

「葉緑体ゲノム：コンパクトな遺伝子構成と多様な発現

様式”“The chloroplast genome: compact gene organization and multiple expression mechanisms”

4. Jean-David Rochaix (Univ. de Genève)

「クラミドモナス葉緑体の分子遺伝学：葉緑体遺伝子研究の新展開”“Chloroplast molecular genetics in *Chlamydomonas*: new insights into the function and expression of plastid genes”

開催形態：主催(株)ヤクルト本社

一般公開、入場無料、同時通訳付。

申込方法：

官製葉書に住所、氏名、年齢、勤務先、TELを記入のうえ、5月14日(木)までにお申込み下さい。なお、満員の場合はお断りすることがあります(定員574名)。

申込先：〒105-8660 港区東新橋1-1-19

(株)ヤクルト本社広報室「国際シンポジウム係」

TEL(03)3574-8920

○第13回日本生体磁気学会大会

事務局では一般演題を募集します。会員以外で演題募集要項(1~2月頃発送)が必要な方は、下記までお問合せ、またはご参照下さい。

会期：1998年5月23日(土)~24日(日)

会場：東京電機大学神田校舎

テーマ：生体磁気計測、磁気生体作用、磁気共鳴イメージングなど

演題締切日：1998年3月16日(月)数行の概要添付

原稿締切日：1998年4月頃(刷上り2ないし4頁)

問合せ先：〒243-0124 厚木市森の里若宮3-1

NTT基礎研究所 今田俊明

TEL(0462)40-3575、FAX(0462)40-4716

E-mail: imada@brain.br1.ntt.co.jp

大会ホームページ：

<http://www.okabe.rcast.u-tokyo.ac.jp/bio-mag/home-j.html>

○第2回マリンバイオテクノロジー学会大会(マリンバイオ広島'98)

会期：1998年5月29日(金)~31日(日)

会場：

アステール・プラザ(29日)広島市中区加古町4-17

広島女子大学(30、31日)広島市南区宇品東1-1-17

主催：マリンバイオテクノロジー学会

共催：水圏生態系環境保全学会

大会会長：山岡到保(通産省工技院・中国工業技術研)

日程および概要：

5月29日 シンポジウム「せとうちルネッサンス」

【一般公開；無料】

1. 瀬戸内海は今、どんな状態なのか？(水質・底質)、

2. 瀬戸内海は今、どんな状態なのか？(赤潮・貝毒)、

3. 学者はどうするか? (環境マリンバイオによる対策案)、4. 教育者はどうするか? (環境教育、科学教育)、5. 漁民はどうするか? (森は海の恋人)、6. マリンバイオはどうするか? (研究最前線)、7. 総合討論—パネル・ディスカッション

5月30、31日 研究発表【会員のみ: 要参加費】

1. 国際シンポジウム (水圏生態系環境保全学会との共催、30日のみ)、2. ワークショップ (テーマ別集会)、3. 一般講演、4. ポスター発表 (最優秀ポスター賞あり)

発表申込締切日: 1998年3月20日 (金)

FAX または E-mail 受付
(Subject は moshikomi)

発表要旨締切日: 1998年4月20日 (月)

郵送または E-mail 必着
(Subject は moshikomi)

発表形式:

一般講演 口頭発表 (質疑含15分、OHP 使用)

発表・参加申込方法:

住所、氏名、所属、TEL、FAX を明記のうえ、下記連絡先までお申込み下さい。申込用紙をお送りします。

なお、E-mail でお申込みの場合は、E-mail による返事で申込要領をお知らせします。

○第5回肝細胞研究会

当研究会は生体内または培養系の実験システムで、肝細胞の生理的機能の解明および病態解析とその制御等を目的に、遺伝子、生体分子、細胞および個体臓器レベルにおける最新の研究情報を発表、討議する場です。基礎系と臨床系の両側面を重視しながら、双方の積極的な交流を行うことによって最新技術や研究アイデアを学び、かつ知的刺激を受ける場となっています。第5回研究会を開催するにあたって、シンポジウムとして「薬物代謝のモデル化と遺伝子発現」「肝の再構築化と人工肝」等を検討中です。また、「肝細胞ハイテクセミナー」のワークショップでは、肝細胞への遺伝子導入法やトランスジェニック動物からの肝細胞株樹立法など多くの最新技術を紹介いたします。こうしたシンポジウムやワークショップ等には、会員以外の著名な研究者にも招待講演をしていただく予定です。

会期: 1998年6月5日 (金)・6日 (土)

会場: 工業技術院筑波研究センター 特別講堂
(つくば市東1-1)

参加費: 一般会員5,000円、学生3,000円、非会員8,000円

参加申込: 当日会場にて受付けます

○第4回家族性腫瘍研究会学術集会

会期: 1998年6月27日 (土) 9:30~19:00

学術集会

(6月26日午後 幹事会・世話人会・懇親会)

会場: 東京大学山上会館 (文京区本郷7-3-1)

参加費: 5,000円 (当日会場にて受付けます)

企画:

シンポジウム「家族性腫瘍研究の最前線」

特別講演

「家族性大腸癌」 馬場正三 (浜松医大)

「家族性からみた日本人女性乳癌の現状」

霞富士雄 (癌研)

参加登録料 (発表要旨代金):

(3月20日まで) 会員: 一般 5,000円、学生3,000円

非会員: 一般 9,000円、学生4,000円

(3月21日以降) 会員: 一般 7,000円、学生4,000円

非会員: 一般10,000円、学生5,000円

ワークショップ:

下記のほか数件を企画しております。

*はオーガナイザー

遺伝子工学生体のインパクト

*石田祐三郎 (福山大)、*長沼 毅 (広島大)

環境問題へのマリンバイオのアプローチ

*東原孝規 (生命工学工業技術研)

懇親会: 5月30日 (土)

会費は一般5,000円、学生3,000円。

連絡先:

〒739-0046 東広島市鏡生1-4-4広島大学生物生産学部

第2回マリンバイオテクノロジー学会大会

実行委員長 長沼 毅

TEL(0824)24-7986、FAX(0824)22-7059

E-mail: takn@ipc.hiroshima-u.ac.jp

大会ホームページ:

<http://www.ipc.hiroshima-u.ac.jp/~hubol/mbio.html>

懇親会: 1998年6月5日 (金) 終了後、工業技術院筑波
研究センター食堂にて開催 (参加費5,000円)。

演題締切日: 1998年3月16日 (月) 必着

演題送付先:

〒305-0046 つくば市東1-1

通産省工業技術院生命工学工業技術研究所

第5回肝細胞研究会事務局 (担当: 田中眞奈実)

TEL(0298)54-6503、FAX(0298)54-6503

E-mail: tmanami@nibh.go.jp

抄録:

演題は、一般口演もしくはポスターどちらかの希望を明記したうえ、Macintosh形式、Windows形式、もしくはText形式で3.5インチフロッピーディスクおよびプリントアウト1枚をご送付下さい。ワープロソフトは、日本語の場合一太郎もしくはマックライトII、英語の場合Microsoft WordもしくはWord Perfectをご使用下さい。

書式は、B5用紙半頁が掲載実寸となりますので、中央に、縦10cm×横13cm、33文字×20行を目安に、演題名、改行して氏名と所属、1行あけて本文をタイプ (実寸で10ポイント相当) して下さい。

「DNA 試料入手とその利用の倫理的問題」

武部 啓 (京大・HUGO 倫理委員)

一般演題 (口演、ポスターセッション)

ランチョンセミナー「家族性腫瘍の遺伝子診断法」

「ガイドライン」採択に向けての討論会

抄録集:

当日会場にて参加者にお配りします。発表者、会員には抄録集の印刷が出来次第お送りします。

入会手続:

入会の手続は下記の研究会事務局までお願いします。

(年会費: 個人会員5,000円、施設会員20,000円)

当日会場でも入会手続が可能です。

応募規定：下記の事項を厳守して下さい。
癌の家族内集積および遺伝性腫瘍に関する基礎的・臨床的研究、および症例・家系報告の演題。

- 1) 発表は会員に限ります。
- 2) 規定の抄録用紙 (FAXにて事務局までご請求下さい) をご使用のうえ、簡易書留にて締切厳守でお申込み下さい。症例・家系報告専用の抄録原稿用紙はありませんので、抄録原稿をご使用下さい。
- 3) ご希望の発表形式 (口演、または示説) を演題抄録受領葉書に明記して下さい。ただし、発表形式は、当番世話人が、抄録原稿を査読のうえ、決定しますので予めご了承下さい。

- 4) 演題抄録受領葉書と演題発表通知葉書は、*印以外は裏面もすべてご記入の上、50円切手を貼って抄録原稿と同封してお送り下さい。

締切日：1998年4月10日 (金)

発表申込先：〒170-8455 豊島区上池袋1-37-1

癌研・乳腺外科 霞 富士雄

入会申込・問合せ先：

〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

家族性腫瘍研究会事務局

TEL (06)873-2301 FAX (06)873-2300

○国際枯草菌シンポジウム —分子生物学とバイオテクノロジー— (International Conference on Bacilli, Japan —Molecular Biology and Biotechnology—)

枯草菌とその類縁菌は世界で広く産業に利用されている。また、その優れた遺伝学的性質により、分子遺伝学・分子生物学・バイオテクノロジーの進歩に貢献してきた。本シンポジウムは International Conference on Bacilli のサテライト会議として、わが国で初めて開催されるものであり、80名を越す海外研究者の参加が予定されている。枯草菌ゲノム4.2 Mbの全塩基配列が決定され、4100遺伝子の組織的な解析も始まっている。本シンポジウムではゲノム微生物学時代における枯草菌研究の動向と将来の展開を世界的な視野で議論することが期待されている。

会期：1998年7月12日 (日)～15日 (水)

会場：千里ライフサイエンスセンター

(豊中市新千里東町1-4-2)

主催：国際枯草菌シンポジウム組織委員会

(委員長 吉川 寛)

(財)国際科学振興財団

共催：バイオインダストリー協会、日本スポア研究会

後援：日本分子生物学会、日本農芸化学会、日本生化学会、日本生物工学会、日本薬学会、日本学術

振興会

プログラム：

1. DNA metabolism/Cell division, 2. Cell surface/Secre-

tion/Motility/Competence, 3. Sporulation/Germination, 4. Stress response/Post exponential growth, 5. Metabolism/Gene regulation, 6. Biotechnology, 7. Functional genomics

参加予定の主な国外研究者：

Bron, S. (Netherlands), Danchin, A. (France), Ehrlich, S. D. (France), Errington, J. (UK), Ferrari, E. (USA), Grossman, A. (USA), Hecker, M. (Germany), Hoch, J. A. (USA), Karamata, D. (Switzerland), Losick, R. (USA), Moir, A. (UK), Park, S. H. (Korea), Rapoport, G. (France), Schumann, W. (Germany), Stragier, P. (France), Trautner, T. A. (Germany), Wake, R. G. (Australia)

参加費 (昼食費・懇親会費 含)：一般25,000円

学生10,000円

参加申込：会議の準備の都合上、当日の参加申込みは原則としてお断りします。参加・発表希望の方は会議案内・申込用紙を下記にご請求下さい。

参加・発表申込締切日：5月10日 (日)

申込先：〒630-0101 生駒市高山町8916-5

奈良先端科学技術大学院大学 小笠原直哉

FAX (0743)72-5439

E-mail: bsj-conference@bs.aist-nara.ac.jp

○第20回糖質シンポジウム

会期：1998年7月15日 (水)～17日 (金)

会場：ホテル札幌ガーデンパレス

主催：日本糖質学会

共催：

日本生化学会、日本化学会、日本農芸化学会、日本薬学会、有機合成化学協会、日本応用糖質科学会、日本生物工学会、高分子学会、日本膜学会、日本栄養・食糧学会、日本食品科学工学会、日本材料学会、日本分子生物学会、日本植物生理学会、繊維学会、日本血液学会、日本癌学会、日本炎症学会

討論主題：

糖質、複合糖質の化学と生化学・分子生物学、構造と機能、分析法と合成法および医薬と食品工業などへの応用を主題とします。

発表申込要領：

1. 口頭発表

- 1) 発表内容は自己の業績を中心とした総括的なもの。

- 2) 講演時間は討論を含め25分を予定。

- 3) 一研究室あたり一発表を原則とし、採否は世話人会にご一任下さい。なお、口頭発表を採択された方にはその旨を通知し、発表要旨用原稿用紙をお送りいたします。要旨は図表、文献を含めA4判用紙2枚とします。

2. ポスター発表

- 1) 発表内容は新規な結果を中心としたもの。
- 2) 研究室あたりの発表数には制限はありませんが、採否は世話人会にご一任下さい。なお、ポスター発表を採択された方には、その旨を通知し、発表要旨用原稿用紙をお送りいたします。要旨は図表、文献を含めA4判用紙1枚とします。

口頭発表およびポスター発表の申込者は会報綴込みの申込用紙 (コピー可) に演題発表者氏名 (演者に印)、所属研究期間 (略称)、申込者氏名 (ふりがな)、連絡先 (〒・機関名・所在地・TEL・FAX) および発表概要 (200字以内) を記入し、申込要領通知書の葉書 (返信宛

先を記入)を同封し、下記までお申込み下さい。
発表申込締切日:1998年3月12日(木) 必着
発表要旨原稿締切日:1998年4月25日(土) 必着
発表申込先:

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部癌研究施設生化学部門
第20回糖質シンポジウム世話人会 代表 齋藤政樹 宛
TEL(011)706-5166、FAX(011)706-7821

参加登録:

日本糖質学会正会員および共催学会正会員:
5,000円(当日5,500円)
日本糖質学会学生会員および共催学会学生会員:
2,500円(当日3,000円)

一般: 6,000円(当日6,500円)
一般学生: 3,000円(当日3,500円)

懇親会:日時:7月16日(木)
会場:ホテル札幌ガーデンパレス
会費:8,000円(当日10,000円)

要旨集:5,000円(送料含。会員には無料で配付。)

申込方法:

参加登録料、懇親会会費、要旨集代金の内訳を明記の
うえ、6月17日(水)までに郵便振替にてお振込み下さ
い。口座番号 00140-2-414240
口座名 第20回糖質シンポジウム世話人会
代表 齋藤政樹

○国際シンポジウム 細胞内情報伝達ネットワーク (Conference on Signalling Network for Cellular Regulation)

今日最も重要な研究分野である細胞内情報伝達研究は、近年の飛躍的な進展により様々な情報伝達系が分子レベルで解明され、細胞内では複数の情報伝達系が相互に連関していることが明らかとなってきた。本シンポジウムでは、国内外の主たる情報伝達機構のトップレベルの研究者が一堂に集い、意見交換することにより、情報伝達のネットワークを統合的に理解するための最新の情報を得ることを目的としている。

会期:1998年7月23日(木)~24日(金)

会場:神戸国際会議場

(神戸市中央区港島中町6-9-1)

主催:文部省科学研究費 創成的基礎研究費
(代表 西塚泰美)

プログラム:

7月23日 9:30~12:30

1. Protein kinases: Structure and targeting

1) cAMP-dependent protein kinase: Structural basis for function, regulation and subcellular localization
Susan Taylor (La Jolla, USA)

2) Protein kinase C isozymes and their RACKs, a means for functional specificity
Daria Mochly-Rosen (San Francisco, USA)

3) Substrates that interact with C-Kinase (STICKS)
Susan Jaken (Lake Placid, USA)

4) Atypical PKC isotypes regulate cellular asymmetry in cooperation with ASIP, aPKC specific interacting protein
Shigeo Ohno (Yokohama, Japan)

7月23日 14:00~17:00

2. Lipid messenger signalling

1) Distinct function of each phospholipase A2 in signal transduction
Edward A. Dennis (San Diego, USA)

2) Phospholipase D: Diverse regulation and potential role in vesicle trafficking
Paul C. Sternweise (Dallas, USA)

3) Lysophospholipid signalling
Wouter H. Moolenaar (Amsterdam, The Netherlands)

4) Regulation of inositolphospholipid-mediated signalling
Tadaomi Takenawa (Tokyo, Japan)

7月23日 17:30~19:00

Poster Discussion, Drinks and snacks

7月24日 9:30~12:30

1. Regulation mechanism of cell migration and cell adhesion

1) Biological functions of effectors and regulators of Rho GTPases
Louis Lim (London, UK)

2) Regulation of Cadherin/Catenin signalling
Jürgen Behrens (Berlin, Germany)

3) Mechanisms for inducing cell polarity by Cadherin-mediated Cell-Cell Adhesion
James Nelson (Stanford, USA)

4) Regulation of cytoskeleton and cell adhesion by Rho family GTPases
Kozo Kaibuchi (Ikoma, Japan)

7月24日 14:00~17:00

2. Cell cycle & apoptosis

1) RAS regulation of apoptosis, the cell cycle and cell morphology
Julian Downward (London, UK)

2) TOR signalling and control of cell growth
Michael N. Hall (Basel, Switzerland)

3) Molecular mechanism and physiological role of Fas-mediated apoptosis
Shin Yonehara (Kyoto, Japan)

4) Development of peripheral lymphoid tissues as a programmed inflammation
Shinichi Nishikawa (Kyoto, Japan)

参加登録費:無料

参加登録締切日:6月20日(土)

参加申込方法:

「氏名」、「所属」、「連絡先(FAX, E-mail)」を和英並記のうえ、お申込み下さい。

参加登録先:

〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

「細胞内情報伝達ネットワーク」事務局

TEL(06)873-2301、FAX(06)873-2300

E-mail: o-conf@bcasj.or.jp

○第3回アジア太平洋細胞生物学会議 (Third Congress of the Asian-Pacific Organization for Cell Biology)

会期：1998年8月24日(月)～28日(金)
会場：千里ライフサイエンスセンター
よみうり文化ホール
(両会場とも地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

組織委員長：岡田善雄(大阪大学名誉教授)

会議公用語：英語

メインテーマ：

From molecules to man: Frontiers in cell biology

基調講演：

Morphogenesis and evolution of the eyes

Walter J. Gehring (Univ. of Basel)

Cytokine signal transduction: Lessons from knockout mice

Tadamitsu Kishimoto (Osaka Univ.)

Coat protein-mediated sorting of secretory proteins

Randy Schekman (Univ. of California, Berkeley)

Ataxia-Telangiectasia and ATM: From a human genetic disorder to a physiological pathway

Yosef Shiloh (Tel Aviv Univ.)

Crystallographic studies of the biological functions of animal viruses

David Stuart (Univ. of Oxford)

Cadherin-mediated patterning of cell assemblies

Masatoshi Takeichi (Kyoto Univ.)

Integrin-mediated adhesion, signalling, and cytoskeletal regulation

Kenneth M. Yamada (NIH)

シンポジウム：

1. Molecular dynamics of cytoskeleton in cell motility and structure, 2. Molecular mechanisms of cell cycle control, 3. Cell-Cell and Cell-Extracellular matrix adhe-

sion in cellular recognition and signalling, 4. Molecular chaperone and protein transport, 5. Chromosome dynamics, 6. Frontier of structural biology, 7. Apoptosis, 8. Rho Small G protein and actin cytoskeleton, 9. Cytokine and growth factor in cell growth and differentiation, 10. Cell polarity and cellular signalling, 11. Genomic instability, 12. Cell differentiation and morphogenesis during early animal development, 13. Mechanism of cytoplasmic division, 14. Ran Network and nuclear transport, 15. New frontiers of molecular and cellular biology in plants, 16. Developmental biology of nervous system

他に、ワークショップ、テクニカルセミナー、一般講演(口演、ポスター)を予定しております。

演題申込締切日：1998年4月25日(土)

参加費：事前登録(一般)20,000円、(学生)8,000円

事前登録締切日：1998年7月20日(月)

事務局：

〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

第3回アジア太平洋細胞生物学会議 事務局

TEL(06)873-2301、FAX(06)873-2300

E-mail: o-conf@bcasj.or.jp

http://www.bcasj.or.jp/apocb/

*なお、本会議は1998年度の第51回日本細胞生物学会大会との合同開催となります。

○第9回日本消化器癌発生学会

第9回日本消化器癌発生学会の演題を募集します。

会期：1998年9月10日(木)、11日(金)

会場：東武ホテルグランデ(宇都宮)

主題Ⅰ：シンポジウム(公募、1部指定)

1. 消化器癌発生を修飾する内的環境因子(胆汁酸、常在細菌叢、ウイルスなど)

2. 消化器癌の臨床的特徴とその分子生物学的背景

3. H. pyloriと胃癌、MALToMa

主題Ⅱ：ラウンドテーブルディスカッション(公募)

1. 消化器癌の誘因(手術、食物、化学物質、放射線、感染など)

2. 消化器癌発生抑制の試み(gene therapyを含めて)

3. 消化器癌発生とホルモン、growth factor, cytokine

4. 消化器癌好発実験モデルの臨床研究への応用

5. 消化器癌発生高危険群に対する効果的サーベイランス

一般演題：広く消化器癌の発生と進展に関係する演題を募集。

演題申込：

規定の申込ハガキ(3連式)に必要な事項をご記入切手貼付のうえ、所定の抄録用紙(オリジナル1部とコピー3部)を添え、封筒に「演題申込」と朱書き、書留にて当番世話人までお送り下さい。

申込用紙の欄にあります希望の発表形式を○で囲んで下さい。

採用演題は学会誌「消化器癌の発生と進展」に掲載予定となりますので、改めてご案内します。

演題募集締切日：1998年4月3日(金)

演題申込先：

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1

自治医科大学消化器一般外科

第9回日本消化器癌発生学会 当番世話人：金澤暁太郎

TEL(0285)44-2111(内線3507)、FAX(0285)44-3234

○第25回核酸化学シンポジウム

会期：1998年9月18日(金)～20日(日)

会場：甲南大学一号館・三号館

共催：日本分子生物学会 他

講演申込締切日：1998年3月26日(木)

講演要旨(英文)締切日：1998年4月30日(木)

参加登録予約申込締切日：1998年7月23日(木)

討論主題：

核酸および関連化合物の有機化学、物理化学、分析化

学、生化学および分子生物学

発表形式：

口頭発表は1演題あたり発表15分質疑応答5分です。また、この他にポスターセッション(全発表の1/2程度)を設ける予定です。

発表申込方法：

申込みはE-mailでお願いします。なお原則として、一研究室あたり口頭およびポスターそれぞれ1件ずつに

限らせていただきます。1) 希望分野、2) 発表形式(口頭またはポスター)、3) 演題(英語および日本語)、4) 発表者の所属・氏名(講演者に○、英語および日本語)、5) 連絡先(住所、TEL、FAX、E-mail)、6) 和文要旨(約200字)を記入し、NACS@konan-u.ac.jp まで送付下さい。E-mail がご使用になれない場合、A4判の用紙に必要事項を記入の上、原稿をText形式で保存したフロッピーディスクと、返信宛先および演題名を記入した返信用葉書を添えて、下記宛先お申込み下さっても結構です。その他の詳細は、ホームページをご覧ください。

発表希望分野:

A) 有機化学(モノマー)、B) 有機化学(オリゴマー)、C) 物理化学、D) 生化学・分子生物学、E) リボザイ

ム・アンチセンス、F) その他(1つお選び下さい)。
参加登録費: 予約一般8,000円、予約学生5,000円
(当日各2,000円増し)

懇親会: 9月19日(土) 夕方開催予定(会費10,000円)。

申込・連絡先:

〒658-0072 神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学理学部 杉本直己または川上純司

TEL(078)435-2497(杉本)、2495(川上)

FAX(078)435-2539

E-mail: NACS@konan-u.ac.jp

ホームページ:

<http://seimei.chem.konan-u.ac.jp/NACS/>

○ 神奈川科学技術アカデミー教育講座平成10年度第I期 受講生募集 医薬品開発のためのシグナル伝達コース—シグナル伝達機構の解明を病気の診断、治療に役立てる—

このコースは、シグナル伝達の異常から起こる疾病について着目し、その病気の起こるメカニズムについて解説し、治療にむけての方向性について専門の先生方に最新のお話しをしていただきます。コースの構成としては、シグナル伝達系分子の構造と機能の基礎的な概念に始まり、次に病気とシグナル伝達の関係について学び、さらに創薬についてゲノム研究とタンパク質の分子構造から見た医薬品開発について学びます。

カリキュラム編成者:

新井賢一(東大・医科研 教授/医学博士)

後援: 日本分子生物学会

講義日: 5~6月(計7日間)

主なカリキュラム内容:

生理学、生化学から見たシグナル伝達/免疫系のシグナル伝達/神経系のシグナル伝達(1)(2)/内分泌系のシグナル伝達/脳の高次機能とシグナル伝達/シグナル伝達病(1)(2)/肥満とシグナル伝達/脂溶性ビタミンとシグナル伝達

/細胞死とシグナル伝達(1)(2)/ゲノム研究から見た創薬/タンパク質の分子構造と創薬技術/創薬研究の新たな課題(やむを得ない事情により、日程・内容等の変更をすることがあります。)

受講料(消費税含):

72,000円、KAST 法人賛助会員(事務所単位)・神奈川県内中小企業 57,600円(神奈川県内中小企業とは、資本金が1億円以下または企業全体で従業員300人以下であり、所在地が神奈川県内にあること)

募集人員: 20名

申込締切日: 1998年4月17日(金)

問合先・主な講義場所:

㈱神奈川科学技術アカデミー 教育部教育研修課

〒213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP 西棟 6階

TEL(044)819-2033, FAX(044)819-2026

E-mail: kast-ed@net.ksp.or.jp

<http://www.ksp.or.jp/kast/>

○ 理化学研究所脳科学総合研究センター チームリーダー公募のお知らせ

理化学研究所脳科学総合研究センターでは病因遺伝子研究グループのチームリーダー1名を下記の要領で公募します。

研究分野:

パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症の分子病態研究
研究チーム:

チームは研究員、テクニカルスタッフを含めて5~10名の構成からなり、5年ごとの外部評価を受け、十分な評価を受ければチームの延長が可能です。その間の研究費は保証されます。チームは1998年内に発足予定です。

なお病因遺伝子研究グループには本チームの他に、CAGリピート研究チーム(貫名信行チームリーダー)、アルツハイマー病研究チーム(高島明彦チームリーダー)神経遺伝研究チーム(山川和弘チームリーダー)があります。

応募方法:

次の1)~4)の書類をそろえて下記の連絡先に送付して下さい。

1) 履歴書

2) 業績リスト(発表論文リスト等)

3) 研究上の興味および当研究センターにおける研究計画の概要(2000字以内)

4) 推薦者リスト3名(氏名、連絡先)

応募締切日: 1998年4月30日(木)

送付・問合先:

〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1

理化学研究所脳科学総合研究センターサーチ委員会(2)

FAX(048)462-4796

E-mail: search2@brain.riken.go.jp

◆GENES TO CELLS 第2期編集委員

Genes to Cells の第2巻が刊行され、第3巻の編集と印刷に入っております。刊行も不十分とはいえ、ほぼ順調に進み、購読者数も次第に増加しております。Medline 等へも掲載されて、国際的にも次第に認識されるようになってきました。これも皆様を始め、Editors, Associate Editors, Referees の方々のご協力のお陰と深謝しております。

さて、2年の予定でお願いした Associate editors の任期が終わるにあたって、日本分子生物学会会長および Senior editors とご相談のうえ、第2期の Associate editors の選定をいたしました。これまでの雑誌の傾向と将来の方向等を考えて、21名だった国内の Associate editors を27名に拡大し、同時に8名の方々のさしかえを行いました。第2期の新しいメンバーのご助力を得てさらなる発展を期しております。新しいメンバーは、以下の通りでございます。ふるって投稿いただければ有難く存じます。なお、国外の Editorial members の更新は検討中ですが、差し当たって第1期のメンバーにご投稿下さい。

第2期 編集委員 1998~1999

(* 新規)

Editors 留任

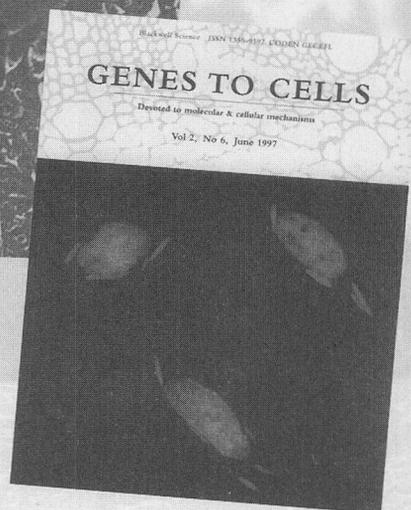
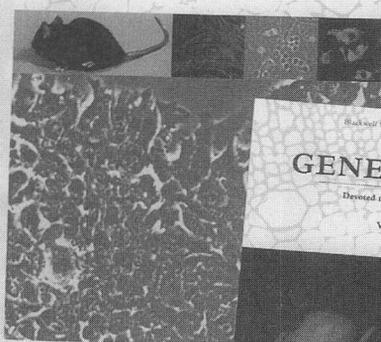
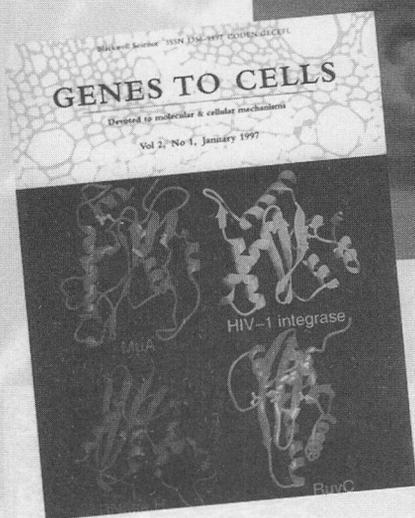
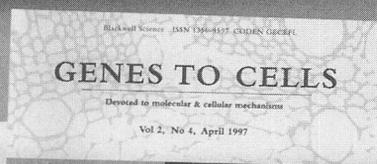
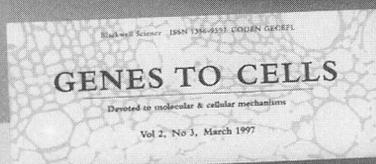
Associate Editors

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 相澤 慎一 | 〒860-0811 熊本市九品寺 4-24-1
熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設形態発生部門
TEL(096)373-5322; FAX(096)366-4287;
E-mail: saizawa@gpo.kumamoto-u.ac.jp | 近藤 寿人 | 〒565-0871 吹田市山田丘 1-3
大阪大学細胞生体工学センター形態形成研究分野
TEL(06)879-7963; FAX(06)877-1738;
E-mail: j61056a@center.osaka-u.ac.jp |
| 花岡 文雄 | 〒565-0871 吹田市山田丘 1-3
大阪大学細胞生体工学センター細胞構造研究分野
TEL(06)879-7975; FAX(06)877-9382;
E-mail: fhanaoka@imcb.osaka-u.ac.jp | 宮園 浩平* | 〒170-8455 東京都豊島区上池袋 1-37-1
癌研究会癌研究所
TEL(03)3918-0111;
TEL/FAX(03)3918-0342;
E-mail: miyazono-ind@umin.u-tokyo.ac.jp |
| 半田 宏* | 〒226-8501 横浜市緑区長津田町4259
東京工業大学生命理工学部
TEL(045)924-5797; FAX(045)923-0380;
E-mail: hhanda@bio.titech.ac.jp | 長田 重一 | 〒565-0871 吹田市山田丘 2-2
大阪大学医学部遺伝学教室
TEL(06)879-3310; FAX(06)879-3319;
E-mail: nagata@genetic.med.osaka-u.ac.jp |
| 堀田 凱樹* | 〒411-8540 三島市谷田1111
国立遺伝学研究所
TEL(0559)81-6700; FAX(0559)81-6701;
E-mail: yhotta@lab.nig.ac.jp | 中村 義一* | 〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1
東京大学医科学研究所
TEL(03)5449-5307; FAX(03)5449-5415;
E-mail: nak@hgc.ims.u-tokyo.ac.jp |
| 石浜 明 | 〒411-8540 三島市谷田1111
国立遺伝学研究所
TEL(0559)81-6741; FAX(0559)81-6746;
E-mail: aishiham@lab.nig.ac.jp | 成宮 周* | 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学研究科神経・細胞薬理学(薬理学第二講座)
TEL(075)753-4392; FAX(075)753-4693;
E-mail: snaru@mfour.med.kyoto-u.ac.jp |
| 石井 俊輔* | 〒305-0074 つくば市高野台 3-1-1
理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センター分子遺伝学研究室
TEL(0298)36-9031; FAX(0298)36-9030;
E-mail: sishi@rtc.riken.go.jp | 西田 栄介 | 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科生物科学専攻
TEL(075)753-4230; FAX(075)753-4235;
E-mail: 150174@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp |
| 貝淵 弘三* | 〒630-0101 生駒市高山町8916-5
奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科細胞内情報講座
TEL(0743)72-5440; FAX(0743)72-5449;
E-mail: kaibuchi@bs.aist-nara.ac.jp | 西川 伸一 | 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部大学院分子医学系専攻
TEL(075)751-4160; FAX(075)751-4169;
E-mail: snishika@virus.kyoto-u.ac.jp |
| 桂 勲 | 〒411-8540 三島市谷田1111
国立遺伝学研究所構造遺伝学研究センター
TEL(0559)81-6845; FAX(0559)81-6846;
E-mail: ikatsura@lab.nig.ac.jp | 小川 智子 | 〒411-8540 三島市谷田1111
国立遺伝学研究所
TEL(0559)81-6881; FAX(0559)81-6884;
E-mail: tomogawa@lab.nig.ac.jp |

- 大島 靖美* 〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学理学部生物学科
TEL(092)642-2626; FAX(092)642-2645;
E-mail: yohshscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
- 岡田 清孝* 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院生物学専攻(理学部植物学
教室)
TEL(075)753-4247; FAX(075)753-4257;
E-mail: kiyo@ok-lab.bot.kyoto-u.ac.jp
- 坂野 仁* 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学研究科生物化学専攻
TEL(03)5689-7239; FAX(03)5689-7240;
E-mail: sakano@hongo.ecc.u-tokyo.ac.jp
- 清水 孝雄* 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部第二生化学
TEL lab. (03)5802-2925, office (03)3813-8964;
FAX(03)3813-8732;
E-mail: tshimizu@m.u-tokyo.ac.jp
- 高井 義美 〒565-0871 吹田市山田丘 2-2
大阪大学医学部分子生理化学教室
TEL(06)879-3410; FAX(06)879-3419;
E-mail: ytakai@molbio.med.osaka-u.ac.jp
- 竹市 雅俊 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部生物物理学教室
TEL(075)753-4196; FAX(075)753-4197;
E-mail: takeichi@take.biophys.kyoto-u.ac.jp
- 月田承一郎 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部医科学第二講座
TEL(075)753-4372; FAX(075)753-4660;
E-mail: htsukita@mfour.med.kyoto-u.ac.jp
- 若林 健之* 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学研究科物理学専攻
TEL(03)3812-2111 ext. 4211;
(03)3813-8757(直通);
FAX(03)3814-9717;
E-mail: tw007@tkyemg07.phys.s.u-tokyo.
ac.jp; wakabayashi@phys.s.u-tokyo.ac.jp
- 山本 正幸 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学理学部生物化学教室
TEL(03)3814-9620; FAX(03)5802-2042;
E-mail: myamamot@ims.u-tokyo.ac.jp
- 山本 雅* 〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1
東京大学医科学研究所
TEL(03)5449-5301; FAX(03)5449-5413;
E-mail: tyamamot@ims.u-tokyo.ac.jp
- 吉川 寛* 〒630-0101 生駒市高山町8916-5
奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエ
ンス研究科
TEL(0743)72-5510; FAX(0743)72-5519;
E-mail: hyoshika@bs.aist-nara.ac.jp

GENES TO CELLS

Devoted to molecular & cellular mechanisms



- top quality international research and reviews in molecular and cellular biology
- focusing on the basic molecular mechanisms underlying biological processes
- no page charges and 25 free offprints for authors
- GENES TO CELLS is covered by *Medline* and *Index Medicus*
- personal subscriptions from just £70.00 a year

日本分子生物学会 会報

年3回刊行

第59号 (1998年2月)

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所